

# ひきこもりの実態把握に基づく孤立・孤独支援施策及び事業の提案

大阪公立大学(野村 恭代)、大阪府地域福祉課、先端AIロボテック株式会社、株式会社博報堂

ひきこもりの実態把握と孤立・孤独に至る要因分析を踏まえて、メタバースを用いた新たな社会参加・社会復帰支援事業を産学官民で創造する。具体的にはメタバース空間に「インドアライフ研究所」を設立し、2026年度より運営を開始する。この研究所では、ひきこもりの状態にある人が研究員として社会と間接的につながりながら活動し、収入を得る機能を持たせるとともに、相談や対話ができる場も空間内に設置する。事業として確立するためには、実社会とつながることを選択していない人の利用促進や、心身面の変化・行動変容の評価が必須であるため、医学研究科精神神経医学講座の協力のもと、意識・行動変容の評価を実施する。

## 総合知により目指すビジョン / 解決する社会課題

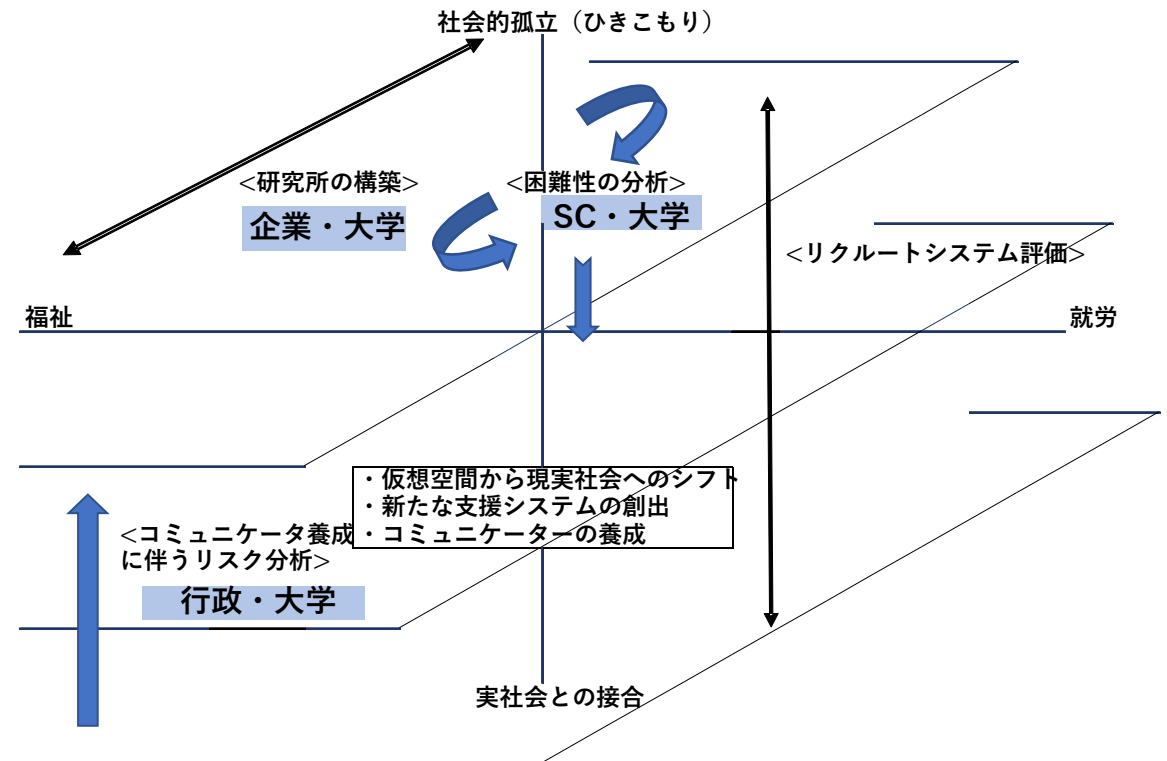
メタバースを用いた新たな社会参加・社会復帰支援事業を産学官民連携により創造し、将来的にはNPO法人等によるひきこもり支援団体の事業展開、ひきこもりの人をメタバース空間における「ひきこもり支援者」として育成、多様な社会参画の探索を目指す。

## ビジョン達成の課題

課題として、ひきこもりの状態にある人は一つの空間に定着しにくいいため、当事者の声を反映した場づくりが求められる点や、その様な人が社会に再び出るきっかけを身近でハードルの低いデジタル空間に示し、ピアサポート的に活躍できる場を構築する必要がある。

## 「矩」を超えた場づくり / 得られた新たな価値

ひきこもりをめぐる従来の受動的な「援助」モデルから、当事者が主体となる能動的なエンパワメントモデルへの転換。本研究所は従来の支援から一歩踏み込み、「つながり」「稼ぐ」「学ぶ」を一つのサイクルの中で実現する。これにより、当事者が自らの力で人生を再設計していくための、長期的な支援策を提案する。



# — ひきこもりの実態把握に基づく孤立・孤独支援施策及び事業の提案

<本研究事業のコア・コンピテンシー>

## 【1】経験の価値の再定義

ひきこもりの「経験」を社会から隔絶されたネガティブな状態としてとらえるのではなく、生活様式を理解するための「専門性」として捉え直す。

## 【2】自己完結型経済圏

研究所活動で得た収益(メタバース内でのコインを想定)が職業訓練の原資となる内部経済システムを構築し、持続可能性と参加者の自律性を両立させる。

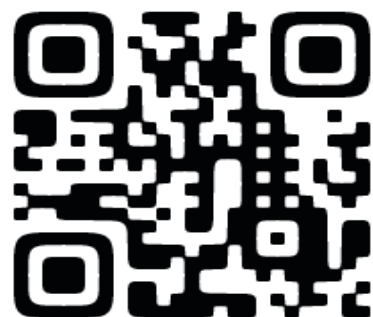
## 【3】循環型キャリアパス

一人の当事者が「研究員」から「専門職」、そして「メンター」へと成長する全方位的なキャリアの道筋を提示し、希望と目的意識を醸成する。

本提案「インドアライフ研究所」は、日本のひきこもり支援におけるパラダイムシフトを促す可能性を秘めている。それは、従来の受動的な「援助」モデルから、当事者が主体となる能動的な「エンパワメントモデル」への転換である。加えて、自治体の既存のメタバースモデルが「つながりの創出」に主眼を置くのに対し、本研究所はそこから一步踏み込み、「つながる」と「稼ぐ」と「学ぶ」を一つのサイクルの中で実現する。これにより、単発の支援ではなく、当事者が自らの力で人生を再設計していくための長期的な支援になると考えている。



Indoor Life Lab ロゴマーク



Indoor Life Lab HP

